

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調に、自他の生命を尊び、豊かな知性と感性を備えるとともに、国際感覚をもった心身ともにたくましい、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。 ○よく考え がんばる子 ○明るく思いやりのある子 ○強い体で 元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「子ども・教師・保護者・地域が共に学び合い育ち合う学校」 ○子どもにとって学びがいのある学校 ○教師にとって働きがいのある学校 ○保護者・地域にとって誇りにできる学校
○児童・生徒像	○自分の成長を実感し、生涯学び続けようとする子ども ○自他の違いを多様性として認め、それを「よさ」として活かしていこうとする子ども ○人や社会のために役立つ働きをし、自らよりよい関係性や社会を作ろうとする子ども
○教師像	○授業の質を高め、常に学び続ける教師。 ○子どもの「よさ」を積極的に見出し伸ばしていこうとする教師。 ○保護者・地域と共によりよい学校づくりを目指す教師。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

本年度は、学級減となり1学年が2学級でスタートした。どの学年も徐々に軌道に乗り始め、全般的には落ち着いた学校生活が営まれている。

昨年度の教育的課題は、「学力向上」の面にあった。授業には、ほぼ全員が真面目に取り組む状況であったが、同じ学年内でも児童構成や習熟度の2極化などにより学級間で学習成果の偏りがあった。そのようなことから今年度からは、全学年が学級編成を行い教育の不均衡さを生じさせないための取り組みを行った。安定した学力や学びへの意欲向上は教養となり、落ち着いた生活に繋がって行くというよい循環づくりを目指して取り組みたい。

なお、本校は1校1町会という地域と密接な関係を持つコミュニティスクールとしての独自性を持ち、地域の暖かい見守りを受けている。保護者の協力体制もとてもありがたく、地域・家庭・学校の連携で本校のさらなる向上を目指していきたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○
4	幼保小中連携	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的学力の定着、活用力向上		学校平均通過率 80%以上		国語 80.8% 算数 84.1%		目標通過率は達成しているが、出題の難易度による目標値に対する割合であり、正答率低下に課題がある。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全学年 全教員	年間	・各種研修、研究への取り組みと実践	・児童の授業振り返文の内容。 ・学力等テスト結果	単元毎 前期末 年度末	校内研究の重点を「書くこと」に置き、研究授業や協議会を多数実施した。	インプットから思考を経てアウトプットできた段階で初めて理解できたと言える共通認識をもった。	○
2 継続	環境整備	全学年	年間	・補充時間の確保、教務と連携による時程調整	・再テストや演習による復習確認	単元毎	授業前の火水を朝読書、月木授業後のキュビナタイムの全校実施。	全校一斉に行い、AIドリルについては、各自の進度に応じた取り組みを行った。	○
3 継続	ICT活用	全学年	年間	・AIドリルによる補充、家庭学習の定着と充実 ・タブレットの効果的活用	データによる 確認点検	前期末 年度末 (通過率80%)	校内ではドリルの他に意見交換などのツールとしても活用。家庭学習では進度に合わせたAIドリルの展開。	家庭学習で取り組むAIドリルについての実施状況を担任が把握して各自に相応しい指導を行う。	○
4 継続	学校図書館活用	全学年	年間	・「図書館＝調べ学習」概念の払拭(心の居場所)	読書マラソン その他	前期末 年度末	図書館支援員のご支援の下で生きた図書館が作られた。児童の肯定的評価が65%	図書館支援員さんと担任との連携が密になれば、更に教育的効果の向上が望める。	△
5 継続	各種検定への取り組み	全学年	年間	・漢字検定等の取得目標設定による意欲の向上	受験者数 合格者数	その都度年2回 (合格率90%)	漢字検定の受験者数は、毎回20名弱が参加し、合格率は9割程度であった。	受験者数が少なく、外部における実力を試す上でも受験者と合格者を増やしたい。	△
6 新規	個別対応	全学年 国語・算数	年間	・A～D層の各現状と見込みの分析、対応。	通過率 80%以上の定着	通年	下位層に対応が傾き、上位層に対しては個別指導が綿密に行えなかった傾向にある。	定着できていないのか、ついうっかりなのかのなどデータをもとに正しく判断する教員の姿勢も重要である。	△
7 新規	書くことの推進	全学年	年間	・毎日(1日おき)の日記 ・行事後の作文	育成方法なので 達成数値は未設定	通年	校内研究の重点であり、授業における書くことは重視したが、フリースタイルの作文は定着していない現状。	年間を通して、行事後などの作文機会を設定するなどの積極的働きかけが行えるようにしたい。	●

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感と人権意識の向上		年度末学校評価における80%以上の肯定評価。	教育活動における人権感覚への意識向上については、肯定的評価が行われている。	大人（教員）の言葉遣いや態度など表面だけにとられない信頼関係の構築が重要である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感を持てる心を培う	・年度末評価で80%以上の肯定的意見。	<ul style="list-style-type: none"> ・QUによる個別分析。相談等の支援。 ・係、委員会、当番等の配当とその評価。 ・明確な学習目標を提示し、その達成度への指導評価。 	<p><学校評価での肯定的評価率></p> <p>「思いやりの心・規範教育について」 保護者 92% 児童 91% 教員 100%</p>	<p>普段の生活内で一隅を照らせる教師集団であるように努めた。</p> <p>学習成果の向上は、自信の向上に大きく寄与するため更に授業の充実も図りたい。</p>	○
人権尊重の心を育む		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート等をもとにした人間関係の把握と改善への取り組み。 ・SCの全員面接 ・道徳指導やワークショップ、講演会等の充実 	<p>「人権について」 保護者 95% 児童 92% 教員 100%</p> <p>「いじめ・不登校について」 保護者 89% 児童 94% 教員 100%</p>	<p>いじめやトラブルの発生は、集団生活では必然ともいえる。それを人権意識への好機と変えられるように早期対応を逃さない努力を続ける。</p>	○
他者との関りを通して自分を知る		<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り異年齢交流「なかよし班」の実施。 ・特別支援学級との日常的な交流。 ・幼稚園や老人介護施設との交流、町会行事への関り。 	<p>「学校の雰囲気について」 保護者 94% 児童 84% 教員 86%</p>	<p>校内での異年齢集団活動や特別支援学級などは定着しているが、校外における活動機会は多くはなかった。</p>	○
自分を取り巻く環境への意識を高める		<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsへの取り組み。 ・クリーン作戦やペットボトルキャップの回収。 ・外部団体と連携した募金活動。 		<p>教員は日々人の命と心の重さについて関わっているので自己評価を肯定的に行うが、家庭・児童との乖離を一考することも必要である。</p>	○

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
スポーツに親しみ健康安全な生活の実践		全国体力調査の結果が全国平均以上 学校評価で80%以上の肯定意見。	体力調査は平均的であった。 児童の評価は80%を超えた。	数値的にはスポーツに対して 肯定的にとらえる学校と言える が、不得意とする子どもたちにも 意欲を高める必要がある。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
スポーツに親しむ 態度を培う	児童の体育に関わる自 己評価が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査に向けての要点を押さえた練習。 ・アスリートを招いたスポーツ体験の実施。 	<アスリート指導による体験会> <ul style="list-style-type: none"> ・世界チャンピオンのなわとび ・デフサッカーを通したパラスポーツへの理解 ・読売ジャイアンツアカデミーによる野球教室 ・リングビーの体験講習会 等	体育に関する全国調査の結果 をもとに、各々の児童が自らの特 徴を知り、向上させる機会が少な かった。 プロアスリートによる縄跳び やデフサッカーなど、体験機会は すべて実施できた。	○
日常的に取り組む 体力向上		<ul style="list-style-type: none"> ・全学年が交流しながら遊びに取り組む「こぢランド」の通年実施。 ・季節ごとに取り組みが変わる体育朝会。 ・外遊びの励行 	<学校評価での肯定的評価率> 「体育・健康教育について」 保護者 92% 児童 85% 教員 100%	縄跳び（個人・団体）、持久走 大会、運動会など通年でスポーツ （からだ作り）に関しての取り組 みを行うことができたが、運動の 苦手な子どもでも一緒に楽しみ挑戦 できる校風づくりも重要である。	○
健康や安全を意識で きる態度の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業を通して体の動かし方を理解し、安全への配慮ができるようにする。 ・他の児童との活動内でルールや配慮を意識できる姿勢を育む。 		中休みや昼休みなどの際に起 こりやすい接触事故を回避する 二つの項目（周囲に注意を払う・ 譲り合う）を徹底させ、心の育成 も兼ねて指導が大切である。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

従来の2年おきの学級編成を改め、全学年が1年ごとに新学級で臨む形態を実施した。学力や体育等での運動面においても学級間の較差が生じないように配慮し運営を展開した。

学力の安定と向上への取り組みは学校の本分であり、まず授業を第一とする教員の共通認識と授業改善への取り組みを日々行った。教員間の授業公開と協議会の校内研究やICT活用の研修会など、「分かる授業づくり」を目指した。教師が一方的に進行させる教え込み型の授業形態から、児童自身が常に「なぜ」との自問をもち、その課題解決に向けて取り組める授業づくりを目指しているが、実際はまだその途上にあると言える。今後も全職員が研鑽を続けていく。

学習指導と生活指導は両輪関係にあり、学習への自信をもつことで落ち着いた生活のできる状況が生まれ、落ち着いた学習環境の中で更に学びへの意欲が向上するという連鎖がある。しかし、逆もまた然りである。学校生活の安定を図るためにも一方的な指導ではなく、児童の「なぜ」に応じて納得を促せる児童指導に心がけた。その際にはご家庭からのご理解とお力添えをいただき、教職員も助けられた案件がほとんどであった。ただし、現在心にトラブルを抱える子供たちが増えている社会的兆候に即して、本校にも支援を要する児童が少なからずいる中では、さらなる家庭との連携が重要となっている。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

現代社会は、多様化や人権擁護の名のもとに明らかに自己中心的な解釈や行動を押し通そうという傾向も見られる場面があります。しかし、本校においてはそのようなトラブルもなく、社会的規範意識を備えられたご家庭の皆様に支えられております。小学生は、まだまだ未熟で成長途上の真只中にいます。間違いややりすぎを起こしてしまうのも当然です。大事なことは、それが起きた時に正しい選択を大人が示すことです。良いことや長所を褒めて伸ばすのは大切ですが、改めるべきことについて甘やかすことは「褒めて育てる」の本質ではありません。そのためには、教職員も常に襟を正し研鑽に努めて参ります。「よく考えてがんばり、思いやりのある子」を育てるために、どうかこれからもよろしくお願い致します。

また、地域の皆様におかれましては、1校1町会という特質を生かして常に綿密な関係にあり、学校を支援していただき感謝申し上げます。コミュニティースクールという独自性を発揮しながら古千谷本町唯一の小学校として、地域・家庭・学校の三位一体で進んでいきたいと願っております。

(3) その他（学校教育活動全般について）

3カ年に渡る校舎改修工事の2年目、夏から秋にかけての工事期間中も事故なく過ごすことができました。ご家庭のみなさんのご指導のお陰と感謝申し上げます。令和7年度は本校創立50周年を迎え、記念行事も行われます。節目となる次年度も皆様のお力添えを何卒宜しくお願い致します。